

◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載 ◆ 第26回/朝香宮邸、隠れた見どころ—ラジエーター・カバー—

Residence of Prince Asaka 1933—



図1

旧朝香宮邸の室内装飾には、ラリックのガラス扉やラバンの香水塔などフランス、アール・デコの代表作とともに、宮内省の技師たちの優れたデザインが各所にみられます。貴族の住宅等建築研究のため欧州留学し、アール・デコ博覧会も熱心に見学した権藤要吉をはじめとする内匠寮の技師たちは、研鑽の成果を日本人の感性を生かした和風モダンのかたちに昇華し宮邸に結実させました。

今回はそのなかでも隠れた見どころ「ラジエーター・カバー(暖房器カバー)」をご紹介します。これらはすべて内匠寮の技師たちのデザインにより日本で製作されました。様式はアール・デコに括られますが、豊富なヴァリエーションは私たちの目を楽ませてください。

まずはじめに、フランス風アール・デコ・デザインです。大客室の暖炉カバーのデザインは同室にあるマックス・アングラン作エッチング扉からのアレンジと推測できます。雪の結晶や花のモチーフに共通点がみられます。ラリックのシャンデリアやラバンの壁画、そしてアングランの扉で飾られた、館内で最も華やかな室内装飾のアクセントとなっています。殿下居間の暖炉にもアール・デコの代表的な金属工芸家エドガー・プラントのアール・デコ博出品作を参考にした「噴水」のモチーフがありま

す。「噴水」はバラの花とともにアール・デコ様式の主要モチーフのひとつでした。

つぎに、妃殿下のデザインに注目です。允子妃殿下は芸術に造詣が深く、パリ滞在中に水彩画を習得されました。妃殿下寝室の暖房器の吸込・吹出口を飾るグラジオラスのような花とトレリスのデザインは、妃殿下ご自身の下絵によるもので

す。姫宮の間の百合の花のカバーも妃殿下の下絵からデザインされたものです。

そして、和風モダン—日本のアール・デコ。小食堂のラジエーター・カバーは「香の図」*1の文様です。小食堂はフローリングに床の間という和洋折衷の安らぎの演出がされていますが、「香の図」は家族団欒の場である小食堂に宮家の格式を添えています。また、2階ホール、廊下、南面ベランダのラジエーター・カバーには江戸小紋の「青海波」が使用されています。日本美術がアール・ヌーヴォーに影響を与えたことは良く知られていますが、アール・デコの工芸やファッションにも江戸小紋など日本の意匠が採り入れられていました。様式化、反復する図柄がアール・デコ・デザインの特性と合致したのでしょうか。これらがまた日本に回帰し、アール・デコの洋館の意匠として出現したのです。(高波) ◆



図2



図3



図4

図1. 大客室暖炉ラジエーター・カバー

図2. 大客室ガラス・エッチング扉 (マックス・アングラン作)

図3. 妃殿下寝室ラジエーター・カバー (デザイン下絵: 朝香宮允子妃殿下)

図4. 次室(香水塔左手)に青海波のラジエーター・カバー

*1.「香の図(こうのず)」は、芸術品等の文様として利用される縦線と横線で構成される図柄。本来は香道で用いられる組香の図。